

博士課程後期概要

人文科学研究科

史学専攻

1. 専修科目, 授業科目, 単位数, 担当者及び主研究内容等

※ 担当者氏名前の○印は, 令和6年度の学生募集担当者を表します。

| 専修科目 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 | 主研究内容等 |
|------|-----------|-----|------------------------|---|
| 日本史 | 日本史学特別研究Ⅰ | 12 | 教授 ○福嶋 寛之 | 受講者が選んだ日本近現代史に関わるテーマについての研究指導を行う。具体的には, 先行研究の的確な批判, それを克服するための適切な研究課題の設定と方法, 史料収集・分析と情報抽出の仕方, 確かな根拠に基づいた論の展開などの指導を行い, 独創的な歴史像の構築を目指す。 |
| | 日本史学特論Ⅰ | 4 | | 日本近現代史, 特に昭和期における政治史・思想史・教育史に関する諸問題を扱う。具体的には授業担当者が目下, 取り組んでいる研究課題について取りあげる。 |
| | 日本史学特別研究Ⅱ | 12 | 教授 博士(文学) ○西谷 正浩 | 受講者が選んだ研究テーマについて, 具体的な研究指導を行い, 受講者の論文作成の実践的な力を養う。関係の研究・史料を網羅的に収集・読解し, 先行研究を批判的に継承するとともに, テーマに関して体系的・独創的な歴史像の獲得をめざす。 |
| | 日本史学特論Ⅱ | 4 | | 社会・経済・思想の問題を中心に, 日本中世史の主要テーマについて講述する。 |
| | 日本史学特別研究Ⅲ | 12 | 教授 ○梶原 良則 | 受講者が選んだ研究テーマについて, 具体的な研究指導を行う。的確な研究史の整理をおこなった上で, 網羅的な関係史料の収集と確実な史料批判にもとづく実証的な研究方法を身につけさせ, 体系的で独創性に富む研究論文の作成にいたるよう指導する。 |
| | 日本史学特論Ⅲ | 4 | | 受講生の研究テーマに配慮しつつ, 日本近世史および幕末維新史の政治・経済・社会・文化などの主要なテーマについて, 近年の研究状況を理解し問題点を把握できるよう, 受講生とともに議論を重ねながら検討をすすめる。 |
| 東洋史 | 東洋史学特別研究Ⅰ | 12 | 教授 博士(文学) ○山根 直生 | 受講者の研究テーマを勘案しつつ, 中国唐宋時代史に関する漢文史料の読解・分析と先行研究の批判的検討を併せ行う。また, 学会発表・学術論文の作成や海外留学に関わる実践的指導も行う。 |
| | 東洋史学特論Ⅰ | 4 | | 受講者の研究テーマを勘案しつつ, 中国唐宋時代史の諸問題について多角的に論じる。その際, 先行研究の批判的紹介と検討を行うことを通じて, 視野の拡大と認識の相対化を目指す。 |
| | 東洋史学特別研究Ⅱ | 12 | 教授 ○則松 彰文 | 受講者の研究テーマを勘案しつつ, 中国近世史に関する漢文史料の読解・分析と先行研究の批判的検討を併せ行う。また, 学会発表・学術論文の作成に関わる実践的指導も行う。 |
| | 東洋史学特論Ⅱ | 4 | | 受講者の研究テーマを勘案しつつ, 中国近世史の諸問題について, 16~19世紀世界史の視点から多角的に論じる。その際, 先行研究の批判的紹介と検討を行うことを通じて, 視野の拡大と認識の相対化を目指す。 |
| 西洋史 | 西洋史学特別研究Ⅰ | 12 | 教授 ○森 丈夫 | 18-19世紀のアメリカ・大西洋世界における国家体制と社会の関係について, いくつかのトピックを用いて研究している。とりわけ通商や戦争を通じた植民地-本国関係の転換, 大西洋革命期における国家体制確立のプロセスを検討している。 |
| | 西洋史学特論Ⅰ | 4 | | |

| 専修科目 | 授 業 科 目 | 単位数 | 担当者 | 主研究内容等 |
|------|----------|-----|--------------|--|
| 考古学 | 考古学特別研究Ⅱ | 12 | 教授 ○桃崎 祐輔 | <p>受講者の研究テーマに鑑み、日本古墳時代・朝鮮半島三国時代の馬具生産・鍛冶技術・木器生産・須恵器生産などの手工業生産を中心に研究発表や論文執筆に向けた指導を行う。以下5点に重点を置く。</p> <p>①歴史学の基本的・本質命題に関する討論と、自身の研究哲学・歴史哲学の構築</p> <p>②抽象的命題と個別具体的テーマの相互フィードバックによる論理的思考の訓練。</p> <p>③自身が資料化した史料を根拠とする立論と、その資料性を引き出すための発想や視点の訓練、これを調査姿勢にフィードバックさせる。</p> <p>④博士論文を見据えた戦略的な研究プロセスの組み立て</p> <p>⑤人類史・文明的視点にたつ発想や叙述の訓練</p> |
| | 考古学特論Ⅱ | 4 | | <p>講義では受講者の研究テーマ・時代を勘案しながら、関連する1～20世紀の考古・文献・美術史・民俗・歴史地理学などの成果を複合し、地域史・ユーラシア史の立場からの叙述をめざす。</p> <p>教材はプリントとパワーポイントを併用。</p> <p>地域史の立場では、玄界灘沿岸を中心とした北部九州に焦点をあて、渡来系技術と須恵器生産、馬の飼育と馬具、古墳時代の首長系譜・集落と屯倉、金属器模倣須恵器、山岳信仰遺跡、中世寺院・瓦・貿易陶磁器、幕末の火薬・蠟生産などに着目する。</p> <p>ユーラシア史の立場からは弥生社会と漢王朝の通行、魏晋南北朝の工芸技術、西晋代の鐙の出現とユーラシアへの拡散、重装騎馬戦術の成立と佛教の世界宗教化、隋唐の統一と食器・墓制の転換から律令体制の確立、五代十国・宋・元の海上交通と陶磁器・鉄・銅の交易などに着目する。</p> |

その他の科目(担当者未定科目)

| 授 業 科 目 | 単位数 | 授 業 科 目 | 単位数 |
|-----------|-----|----------|-----|
| 西洋史学特別研究Ⅱ | 12 | 考古学特別研究Ⅰ | 12 |
| 西洋史学特論Ⅱ | 4 | 考古学特論Ⅰ | 4 |

2. 履 修 方 法

- ① 学生の標準修業年限は3年とし、所定の研究指導科目について、合計12単位以上を修得しなければならない。ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ② 研究指導科目のうちから一つの特別研究科目を選定し、これをその学生の専修科目とする。その専修科目を必修とし、12単位を修得しなければならない。
- ③ 専修科目の研究指導(特別研究)担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導に従うものとする。
- ④ 指導教員が、当該学生の研究上特に必要と認めた場合には、専修科目以外の特論科目を履修することができる。
- ⑤ 博士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。